

令和4年1月24日

Vol.14

中津高職員が届ける

卒業生からのメッセージ

お待たせしました～。太田ももさんからのメッセージをお届けします。太田ももさんは現在、中央大学総合政策部の4年生。春からは都内の不動産開発関連の会社に就職が決まっています。また、旭陵留学の第11期生としてカナダ留学を経験しています。

◆高校時代◆

中学2年生の時に参加した高校説明会で、旭陵留学から帰ってきたばかりの先輩の話を聞いて「楽しそう！私も留学したい！」というとても単純な理由で中津高進学を決め、念願叶って高校2年生の時に旭陵留学生としてカナダへ留学させていただきました。勉強に関しては、留学前は習い事に打ち込んでいて、成績も褒められるようなものではなく、テスト順位も下から数えた方が早かったです。留学後、行きたい大学が明確に決まってちゃんと勉強するようになった時、1年生の時からしっかり勉強していたらこんなに苦労しなかっただろうと後悔しました。

◆留学生活◆

カナダで過ごした約1年は今までの人生で最も刺激的な1年でした。私の通った学校は留学生も多い学校だったこともあり、特に親しい友人の出身も中国、フィリピン、ベトナム、ベルギー、エチオピア、コスタリカなど、とにかく国際色豊かな学校でした。バックグラウンドも様々で、難民としてカナダにやってきた子や、母国で紛争が起きているために家族でカナダに移住してきた子など先生

の話を聞いた時、生まれて初めて頭をガツンと殴られたような衝撃を受けたのを今でも覚えています。世界では今でもどこかで紛争や戦争が起きていることは知っていましたが、どこかで自分には無縁な話だと思っていた私にとって初めて国際問題を身近なものと感じた経験だったと同時に「私の当たり前は世界共通ではない」と痛感した瞬間でした。

多様なバックグラウンドを持つ仲間やホストファミリーなど留学で出会った人たちはみんなあたたかくて強い人ばかりで、拙い英語しか話せなかった留学当初から常に背中を押してくれました。そんな人たちとの出会いは英語を習得する以上に価値のあることでしたし、これからの大切にしていきたい繋がりの一つです。



◆進路選択◆

留学生活を経て、それぞれのアイデンティティを形成する要素となる文化や宗教などに興味を持ち、国際系の学部を進路先として選びました。最初は名古屋の大学を受験しようと考えていましたが、当時留学担当だった先生からとある東京の国公立大学を勧めていただいたこと、東京に行ったらもっといろいろな人と出会えると思ったこと、そして東京での生活という言葉がとても魅力的な響きだったからという理由で東京の大学の受験を決めました。その中で中央大学の総合政策学部を選んだのは文化や宗教、国際関係だけではなく経済学や法律など自分の興味あることを幅広く学ぶことができるからです。文化や国際理解に関する講義を中心に経済学や法律についても学んだことで、新たに街づくりや都市開発という入学当初は考えもしなかった分野に興味を持ち、卒業後の進路も都市開発系の企業への就職を決めました。



大学時代に再びカナダへ。当時お世話になったホストファミリーや友達と再会を果たしました。



大学2年生の学祭でサークルの同期と撮った一枚です。ダンスサークルでジャズダンスを踊っていました。上列向かって右から2番目がももさんです。

◆高校生の皆さんに伝えたいこと◆

1つは「とりあえず行動してみる・まず飛び込んでみる」ことです。今の時代は手軽になんでも調べることができる便利な時代ですが、知ることができるのは物事の一部で、実際に体験したり、行って初めてわかることがあるのも事実です。私も高校生の時1年間カナダで生活し、東京の大学に進学して初めて知ったカナダの良さや東京の良さがあります。それと同時に今までわからなかった日本の良さや中津川の良さも知ることができました。きっかけはなんでもいいと思います。実際私は留学も東京の大学進

学も「楽しそうだから」という理由がほとんどですし、それらしい理由は後からつけることも出来るのでまず行動してみてほしいなと思います。新しい世界に飛び込むことは勇気が入りますが、飛び込んでみたら案外なんとかなります。サークルやアルバイトなどもそのうちの一つです。学生のうちにそういう経験をたくさんして、自分の将来の可能性を広げてほしいなと思います。

2つ目は「自分に必要なことを常に考えながら行動すること」です。私が留学できたのも、納得いく進路に進めたのも常に目標に達成するために必要なことを考え、行動し続けてきたからだと思っています。多くの方がご存知かと

と思いますが、中津高の旭陵留学プログラムで留学するには選考を通過しないとはいけません。もともと英語は好きだけど得意ではなく、英会話も習い事を削ってまで行きたくなかったのが今の生活のまま英語に触れる機会を増やそうと考えてクラス内の係で英語係に立候補し、英語の先生にお願いして常に英語で会話してもらい、ALTに会ったら必ず話しかけることを中学生の間続けていました。受験勉強に関しても、各教科の目標点を定め、模試の結果を見て自分がまずどこを対策すべきかを確認しながら勉強を進め、自分で対策しきれない部分は先生にお願いをして補講を開いてもらったり、オリジナルで問題を作ってもらったりと先生方のお力も借りて受験期間を走り切ることができました。

私が大切にしている言葉に“Start where you are. Use what you have. Do what you can.”というアフリカ系アメリカ人プロテニスプレーヤーのアーサー・アッシュの言葉があります。今いる環境や現状でできない理由を探して諦めるのではなく、今の自分に出来ることを考えてみてください。自分一人の力ではどうにもならない時は、私の時もそうだったように、中津高の先生方や仲間がきっと頑張るあなたに力を貸してくれます。目標に向かって自分で考え、行動し、時には周りに助けをもらいながら努力を積み重ねた経験は自分の自信にも繋がりますし、思うような結果が出なくてもいつか必ず活かせる時がやってきます。未来の自分が後悔することのないよう今できることに精一杯取り組んで楽しんで、自分を信じて進んでほしいと思います。



留学中のランチタイムでは、いつも 7~8 人で賑やかにランチを食べていました。

